加島五千石総鎮守
米之宮浅間神社 社報
令和4年
春 号
4月1日発行

春を見上げて

厳しい冬を越え、桜が満開となる中、新年度を迎え、気持ちを新たに切り替える方や、人生の新たな一歩を踏み出す方もおられるでしょう。しかし新型コロナウイルス感染症拡大に伴う様々な制約により、一年の節目をなかなか感じられず、心苦しいばかりです。

コロナ禍以前、華やかな桜が咲く中で、私たちは、「お花見」をし、春を感じ取っていました。そうした春の代名詞ともいえるお花見とは、さまざまな命が芽吹く春になって、桜が咲くと、それは木に神さまが降りてきた知らせとなり、人々は満開のその根本にお酒や食べ物などお供えし、一年の農耕が上手くいくようにとお祈りしていた名残とも言われています。

現代のお花見は、各々の楽しみ方で過ごす春の風物詩となっていますが、少し歴史を遡ってみるだけでも、お花見と神さまのかかわりが見えてくるのではないでしょうか。

昨今は感染症対策もあり、お花見をはじめ様々な行事が行うことのできない状況となっています。コロナ禍が長期化し以前のような生活を過ごすことができず、先の見えない不安な日々が続いていますが、全国の神社では、日々御神前にコロナ禍の収束を祈っております。皆様もご家庭の神棚で、一日も早く平穏な日々を過ごせるよう手を合わせて戴ければと存じます。

昭和の日 四月二十九日

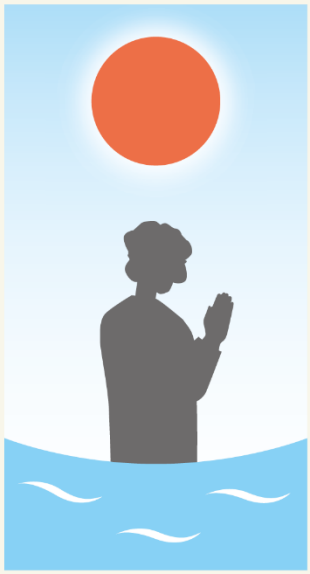
昭和天皇がお生まれになられた日で、昭和の御代では「天皇誕生日」と定められ、ご誕生をお祝いする祝日でした。平成の御代に改まった際、昭和天皇が自然を愛するお人柄であったことから「みどりの日」と制定されましたが、「昭和天皇誕生日」という本来の意味が伝わりにくいという多くの国民の要望を受け、「昭和の日」となりました。昭和天皇の御事績に思いを馳せつつ、昭和の御代を振り返ってみては如何でしょうか。

二十四節気について 「立夏」五月五日

一年の太陽の動きを二十四等分し、相応する名称を付したものを「二十四節気」といい、そのなかで「立春」「立夏」「立秋」「立冬」のことを「四立（しりゅう）」といいます。立夏は夏の始まりとされる日で、気温や湿度も上がり過ごしやすい気候となり、桜の華やかな季節を越え、新緑のみずみずしさを感じられる時期でもあります。

神社の豆知識 清め塩について

お清めに塩を用いることは日本の宗教的習俗であり、海水を意味する「潮」とも通じて様々な風習があります。記紀神話では、黄泉国（よみのくに）から戻ったイザナギノミコトが体についたケガレを祓うため、海水で禊祓（みそぎはらい）を行ったことが記されています。このことから、海水を沸かした「塩湯（えんとう）」が病気治療や無病息災の為に用いられるといった風習に繋がりました。神社のお祭りにおけるお祓いでは塩水が用いられます。葬儀の際に塩が用いられるのもこうした信仰に基づき、非日常と日常とを分けるお清めの行為を象徴的に行ったものと言えます。



神社からのお願い

神社では感染予防に対し様々な取り組みを行なっています。是非清々しい気持ちで神社にお参りして戴く為に、皆様におかれましても感染症対策に十分に気を付けて戴くようお願い申し上げます。

神社や神道について詳しくは
こちらのQRからご覧ください。

神社では、家内安全・身体健全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・旅行安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願・厄祓い・病気平癒・心願成就・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受付けています。いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。
ご祈願についてのお問合せは神社まで

連絡先 **米之宮浅間神社 社務所**
〒四一六-〇九〇六
静岡県富士市本市場五八二
☎〇五四五(六一)〇八一七
□〇五四五(六一)〇八二九